

2022年5月30日

房総半島横断の旅

先日房総半島横断ローカル鉄道の旅を行ってきた。東京駅から内房線で五井という駅まで JR で向かい、五井から小湊鉄道に乗り換えて、終点の上総中野でいすみ鉄道に乗り換えて房総半島を横断し、JR 外房線の終点大原まで乗車し、JR 大原から外房線で東京駅まで戻るといったコースであった。当初は4時間もすれば一周してこれられると思いきや午後から出かけたのだが、結局自宅にたどり着いたのは夜中の11時過ぎとなってしまった。当初はどのくらい時間がかかるのかもわからなかったもので、途中下車しての観光はしないつもりであったが、結局5時間余り予定よりオーバーしてしまった。これは途中での待ち時間が長かったことに尽きる。

五井から小湊鉄道に乗り換えるため、いすみ鉄道を含めた、五井—大原間の直通切符を購入。1730円と少々高い気がした。丁度乗り合わせたのはトロッコ列車とのこと、予約がなかったので自由席だったが、乗客も少なくゆったりと座ることが出来た。休日であったがわざわざ房総半島を横断するような人もいないのかもしれない。とはいっても五井から大原まで通しで買える房総横断乗車券なるものがあり、TV のコマーシャルにも出てくる鉄道なので、観光客もそれなりに増えたのかもしれない。

小湊鉄道に乗っていくつか無人の駅を過ぎていくと、「海士有木」という名の駅があった。変わった駅名なので後でネットで調べたら、海士は漁師、有木は昔、有木城があったと書いてあった。多分この辺に有木城という城があり、この辺はその有木城の城下町でこのころ海岸線がこの辺りまできており、多分この辺りに漁師が住んでいたのだろう。またこの漁師は有木城に脅威が迫ればそれこそ武士として参上したのだろうと思いがぐらした。今は列車が山間部に入るまで平地になっている。やや感慨にふけてしまった。東京駅で買い求めた駅弁を食べながら、景色を眺めていると、まもなく房総の低山間部に列車は進む。

この列車の行き先は「養老溪谷」どまり、いすみ鉄道乗換駅の一つ手前の駅であった。

問題は次の列車が来るまでにここで1時間半ばかり待つてしまった。何もすることもなかったのであたりをブラブラ歩き回っていた。今から考えると電動式のレンタサイクルがあり、すぐにこれを借りて養老の滝あたりまで見物に行けばよかったと思うことしきり。何人かの乗客が同じように過ごしていた。ともあれ約1時間半後、後続の電車が来て一駅、上総中野にたどり着いた。ここで、こんどはいすみ鉄道の大原行をまた1時間くらい待つてことになった。こんなこともあろうかと第1回目の旅は途中下車をしないで回るつもりで出かけたのでまあいいかと思った次第。次回はやはり乗り継ぎを考えてこよう。悪いことにいすみ鉄道は途中から日が暮れてしまい、車窓からは夜の闇だった。残念！

ローカル鉄道はいずれも山あいを走り、周りは山の中、人工物は何もなかった。都会人はビルなど全くない、こうした田舎に行ってみたほうがいいのではないかと思った。人工物は列車のみ！もともとは内房から外房に物資を運ぶ鉄道だったので物思いにふけりながら、列車に乗っていた。大原につく頃にはすっかり暗くなり、今日中に家までたどり着けるのだろうか、心配になった。JR 外房線も東京行きではなく大網行となっており、東京まで帰れるだろうかと思いつきながら乗車。暗い中をしばらく走っていると、大網につきやと東京行きの列車に乗ることが出来た。とはいえまだ知らない地名ばかり、少し走ってようやく土気という駅を過ぎてほっとした。この駅はよくホキ美術館という写実画専門の美術館がありたまにやってきたことがあるところだ。明るい時間だったらこの駅から新宿駅行バスがあり乗って帰れたのかと思いをめぐらした。何はともあれ家には11時過ぎ、やや疲れたが満足できた旅であった。また今度は途中下車も考えて、第2回目に挑戦したい。



海士有木駅